

internet

ミルクホールのホームページが、開設しました。
 『ただ今、制作中です』と、公言してもう半年近く、わけが解らない聞き分けの無いソフトと格闘し、コンピューターから送られてくる、意味不明な質問に頭を抱えて一時期は、完成は、遠い未来のことのようにも思われました。
 何しろ、ミルクホールのメンバーはもともと全員がインターネットそのものをまるで理解していないのですから。ところが、ミルクホールタイムスに掲載した小さな記事の「誰か、インターネットのこと教えて下さい」というなさげない叫びに応えて、この時代遅れなコンピューター音痴の我々の前に、長身で立派な体格の青年が救世主のごとく現われて、「私に、任せて下さい。」と、大らかに笑いかけてきたのである。
 その青年の、コンピューター経験とか経歴はとても専門的で、今現在第一線で仕事をされている人ですから、私たちにってはこんなに嬉しい話はないのですが、仕事も多忙でしょうし、神経を削る毎日じゃありませんか、こんな事お願いして本当に良いのですか？
 「大丈夫です。あ、早速来週から週末に伺いましょう。え？ 報酬なんか要りません。全然。まあ、気にしないで。技術面はとにかく任せて下さい。」この言葉に甘えきって完成したのは言うまでもありません。それでも、この大らかな救世主は私たちには困らされたと思えます。ソフトは理解しないし宿題を中々やらないし。本当に、困ったものです。
 とまかくも苦勞の甲斐あって、ミルクホールらしいホームページに仕上がっています。こうして触れたばかりのインターネットの世界は、本当に不思議な世界でした。



時間も空間も無く、無限に広がっていく世界。まるで宇宙のように、誰もがその存在を知っていながら、誰もその果てを知らない。インターネットの世界は、始めは光輝く眩しい世界に見えますが、ちょうど、暗闇に入るとすぐには真っ暗で何も見えないのに、目が慣れてくると色々な物が見えてくるように、この光の中で目が慣れてくると、中に無数の闇があることも解って来るのです。
 ここには、何でもあるのです。白昼も真夜中も、善も悪も、天国も地獄も... この時空の無い空間にフワフワ浮かぶ無数の闇の塊りは、インターネットの世界に奥深くで迷い込んでしまった人達の心の闇です。貴方もついっかりこの森の中で、遊びすぎて迷い込まないようにご用心。自分の心の闇を覗き込んでしまったら本当に帰ってこれなくなってしまうかも...
 インターネットの森で、もし帰り道に困ったらミルクホールを訪ねて下さい。帰り道を教えてあげられるかも知れません。

<http://www.milkhall.co.jp/>

中島月通信

絵皿いろいろ



骨董品を何か一つ集めてみたいと考えている方にお勧めしたいのが絵皿です。この世界にはコレクションの達人といわれる人がいます。スプーンを集めている人がいるというのを聞きました。彼女はそれこそ世界中のスプーンを集めていて、王室の人が使うような宝石入りのものから、普段使っているようなもの、パーガーショップの紙のスプーンまで集めています。先日、お店に来られたお客様で、楊枝入れを集めているという方がいらっしゃいました。苦勞話を聞いてみると楊枝入れの歴史は以外に新しく、古い物はほとんど無いということです。考えてみると江戸の頃に映画や絵などで見掛ける楊枝は長くて今の物とは随分

INFORMATION

今年も一年間ミルクホールを、愛して下さり、本当に有難うございました。何とか無事に、ミルクホールの1997年を終えようとしています。世の中のニュースや事件は何かと暗い話題が多いですが、いつも前向きに楽しく暮らしていきたいものです。

ミルクホールは今年は、インターネットや蔵元蚤の市など新しい試みがありましたがこの歩けばぎしぎし音のするミルクホールを、いつまでも変わらずに、何より大切に守っていきたくて考えています。

来年もミルクホールをよろしく。
1998年 皆様、よいお年を!

営業時間のお知らせ
 ミルクホール AM11:00-PM10:30 アンティーク PM12:00-PM5:30
 Luch Time AM11:30-PM2:30 Bar Time PM6:00- 定休日なし(時に不定休)
 12月29日はお休みします。年末年始は平常通り休まず営業致します。



違いますから、楊枝入れなど無かったかも知れません。このように、一つのものにこだわって探し続けているうちに、自分にしか解らない意外な発見をしていくのが、コレクションの魅力なのです。たしかに、スプーンや楊枝入れなどに比べると、絵皿などは平凡すぎるのではないかと思います。ところが、これほど種類が豊富で歴史も深く又、世界中にあるものですから、いつまでも興味が尽きることがないのです。絵皿は時代を写す鏡です。日本の陶磁器の歴史で絵皿が見られるようになったのは、初期伊万里の時代からで、当時は渡来人の陶工たちから技術を学び、中国の絵付けを忠実に写して技術を高め体得していきました。初期の時代に兎の絵が見られるのは、明末の陶磁器に「月兎文」の絵柄が多かった為です。その後技術は代々受け継がれ、時と共に絵柄も日本風に規則的な柄にアレンジされ、日本独特の新しい絵柄も数多く生まれました。特に多い絵柄は、やはり風景や松竹梅といったような植物ですが、動物の絵柄も多く、ネズミや雀、鹿、鶴、サギ、竜や来年の干支の寅も見られますが、日本古来からなじみの深い狸や狐は、なぜか絵皿に登場することは以外に無く私はまだ見たことがありません。そして、これほど暮らしに密接な絵柄の中で不思議に登場しないのが、人です。唐人の絵や、坊さんの絵、伊万里の竹の子掘りに登場する人はほのぼのとして私の好きな絵柄ですが、この様に一般人が絵柄になることは異例な事です。明治、大正の時代になるとそれまでの約束事にとらわれる事無く自由な絵柄や、時事に関する絵柄、汽車の絵や、サーカスの象、落下傘、地球など当時の人達の新鮮な驚きが見られます。自分だけの気になる絵柄集めてみると楽しいと思います。

